

団体 No1

プロフィール

団体名：ワインパーク戸沢管理委員会 とざわかんりいいんかい

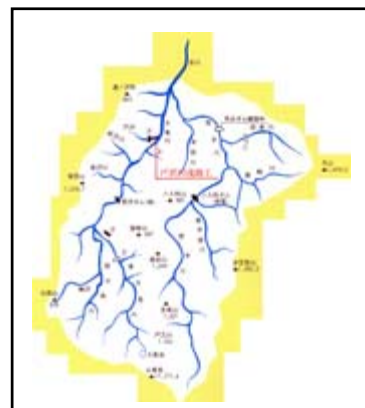
代表者：伊藤 敬助（イトウ ケイスケ）〔会長〕

構成員：40名

設立：昭和63年10月31日

推薦団体 東北地方整備局

推薦理由 表彰基準（4）



功績概要

当委員会は、戸沢川(トザワガワ)砂防堰堤の完成とともに地域住民により組織され、砂防堰堤周辺の樹木の手入れ、除草・清掃等を行っている。

戸沢川砂防堰堤は、昭和62年8月の土砂災害に対して直轄砂防災害関連緊急事業として建設され、堰堤周辺は、「セーフティ・コミュニティ事業」として、砂防工事に関連して防災空間を整備したものである。防災空間は、朝日村が公園事業として整備し、「ワインパーク戸沢」と呼ばれて利用されている。

砂防設備周辺の除草・清掃等は、会員の自発的なボランティアにより、昭和63年から実施されている。会員により維持された水辺環境では、村内の子供達が緑や溪流に親しむ場所として各種行事に利用されているほか、県内外からもキャンプ、釣り、テニス等に訪れるなど広く利用されている。

このように、「ワインパーク戸沢管理委員会」の活動により、砂防設備周辺の美化が図られるとともに、水辺空間を利用する人々に対して、砂防事業の啓蒙にも役立っており、他の模範となるものである。

資料写真等



ワインパーク戸沢全景



施設内の除草作業

プロフィール

しまばらしりつだいごしょうがっこう
団体名：島原市立第五小学校

代表者：峯 彬（ミネ アキラ）〔校長〕

推薦団体 九州地方整備局

推薦理由 表彰基準（2）



功績概要

雲仙・普賢岳の噴火災害では、火砕流や土石流によって、44名もの尊い人命が奪われただけでなく、多くの家屋、田畑、山林などに壊滅的な被害が生じ、地域住民や経済活動に長期にわたって甚大な被害を被った。

島原市立第五小学校は、平成3年8月から平成7年10月までの間、断続的ではあるが長期間におよぶ仮設校舎での授業を余儀なくされたが、このような状況のもと、「自分の命は自分で守るという心・生活の構えを育てる」を具体的指導内容に設定するなど、土砂災害防止思想の普及に取り組んできた。

平成11年6月には、校内に災害資料室を開設するとともに、毎年「忘れまい、あの日のことを」をテーマに全校的に防災学習に取り組み、6月3日に「いのりの日の集会」を開催するなど、土砂災害に対する意識の高揚に努めている。

また、他校との交流にも積極的で、島原に招待された有珠山(ウスザン)の噴火災害を被った洞爺湖(トウヤコ)温泉小学校の児童を励ますなど親密な交流を行ったり、他校の児童たちと「ふるさと経験交流」において噴火災害の恐ろしさ、備え方など実情を伝えるなどの活動を行っており、土砂災害防止思想の普及にも大きな功績を上げている。

更には、雲仙・普賢岳フェスティバル、水無川(ミズナシガワ)導流堤内親子キャンプ、砂防施設を回るウォークラリー、水無川導流堤での卒業記念植樹など砂防指定地内で開催されるイベントに地域と一体となって積極的に参加しており、砂防指定地の利活用を通して、施設の維持管理にも功績を上げている。

以上のように、土砂災害防止に果たした島原第五小学校の功績は非常に大きく、雲仙・普賢岳の噴火災害の被災地域だけに止まらず、他の模範となるものである。

資料写真等



『いのりの日の集会』の様子



有珠山噴火で被災した洞爺湖温泉小学校との交流

プロフィール

団体名：横添ふるさと会

代表者：小長谷 康逸（コナガヤ コウイツ）〔会長〕

会員数：41名

発 足：平成5年3月26日

推薦団体 静岡県

推薦理由 表彰基準（4）



功績概要

横添ふるさと会は、つたの細道・木和田川(キワダガワ)の砂防堰堤をはじめとする岡部町横添地区に存在する歴史的建造物の保存と維持管理を通じ地域の歴史を伝承するとともに、歴史的建造物の活用と自然との調和による地域づくりを行っている地域有志の会である。

木和田川には、明治45年から大正3年にかけて8基の石張り(兜)堰堤が建設されている。

工事は、荒れた川原に大石を台形に積み上げるといふもので、デ・レーケが日本に伝えた工法で、90年近くたった現在でも当時の姿のままでその機能を発揮している、歴史的価値を有する砂防施設である。

横添ふるさと会は、平成5年3月に発足して以来、会員相互の理解や努力により、木和田の砂防施設をはじめ周辺施設の美化・清掃等、施設の維持管理に努めるとともに、平成7年度からは、「木和田川砂防学習ゾーンモデル事業計画策定研究会」へ参加し、木和田川に現存する石張砂防堰堤の保存と周辺整備計画の計画立案を行政と協働して行うとともに砂防施設の整備にも率先して参画し、完成後も砂防学習ゾーン施設を含め広範に亘る施設の美化清掃・維持管理に努めている。

また、砂防施設や周辺施設の美化清掃・維持管理活動のみならず、木和田川砂防工事の工事記録の掘り起しと資料の展示、「つたの細道みどりまつり」の開催、来訪者の記録を綴った「つたの細道ふれあい記録」の発刊(毎年発刊)、木和田川へのホタルの幼虫放流(毎年)など、幅広く活動しており、歴史的砂防構造物の美化・維持管理を通じ、地域の歴史文化の保存・伝承に大きな成果をあげており、その功績は誠に大きいものがある。

注)「つたの細道」は宇津之谷越えの最も古い道で、伊勢物語以来人が歌を詠む山道として広く知られている。

資料写真等



砂防学習ゾーンのイラストマップ



砂防施設内での清掃作業

プロフィール

団体名：^{たくらがわ}田倉川と暮らしの会

代表者：伊藤 喜右衛門（イトウ キヨモン）

会員数：47名

設立：平成9年7月27日

推薦団体 福井県

推薦理由 表彰基準（2）（4）



功績概要

九頭竜川(クズリュウガワ)水系日野川(ヒノガワ)の支流田倉川に注ぐ赤谷川(アカタニガワ)は福井県の砂防事業第1期工事として明治33年ごろに作られた7つの石積み堰堤と2つの土づくり堰堤であり貴重な歴史遺産である。

「田倉川と暮らしの会」は、これらの自然の景観に溶け込んでいる美しい歴史遺産から、先人たちの暮らしと川を学ぶことを目的に設立された団体で、田倉川の魅力を発掘し、川づくりを考え、体験し、地域住民と都市住民が豊かな自然の中で交流、共生して行くことを目指してアカタンをまるごと博物館にする活動を行っている。

同会は、平成10年8月、9月の二度にわたり田倉川上流部を調査し、藪に覆われていた9基の砂防堰堤を確認した。その後平成11年7月から砂防堰堤群の雑木伐採、草刈を行い、年2回以上の頻度で、砂防設備および周辺の清掃を行っている。

また、赤谷川を一つの大きなミュージアムととらえ、明治の堰堤群を歴史的な砂防堰堤群遺産として位置付け管理し、独自に標識を作成し設置。更に小中学生の自然学習素材や都市住民との交流の場として下記のようなイベント及びこれまでの活動を紹介した記録誌を発刊することにより、砂防の啓蒙が図られ、その功績は誠に大きいものがある。

- ・ 明治の砂防を見学するタイム・アドベンチャー
- ・ 沢をトレッキングするリバー・アドベンチャー
- ・ 高校生及び高等専門学校生による砂防堰堤現況測量学習、GPS 測量実習
- ・ 野生動植物の自然観察、炭焼き、農林作業体験、明治27及び28年の土砂災害の説明等
- ・ 活動記録誌『～アカタン砂防100周年～アカタンまるごとミュージアム』発刊

資料写真等



会員による調査活動



同会の第1回目の活動記録誌として発刊された「～アカタン砂防100周年～アカタンまるごとミュージアム」(H13.5)

プロフィール

団体名：下呂町^{げろちょうこうれいしゃ}高齢者クラブ「^{いっしんかい}一心会」

代表者：新開 信雄（シンカイ ノブオ）

会員数：157名

設立：昭和38年1月15日

推薦団体 岐阜県

推薦理由 表彰基準（4）



功績概要

木曾川水系、飛騨川(ヒダガワ)流域の阿多野谷(アタノダニ)は、多くの小さな谷を集めて下呂温泉の中心を流れ下り飛騨川に合流している。その急峻な流れはこれまでに、幾度となく土砂災害を発生させたため、明治時代に砂防工事に着手し、砂防堰堤11基、床固工6基が施工され安全な溪流となったことから、昭和61年度から平成4年度にかけて、県は阿多野谷の下流部分を砂防環境整備事業で整備した。

その後下呂町も環境整備事業と併せて平成6年度迄に高水敷の広場に、野外ステージ・噴水・芝生広場・散策路を整備し、町の人や観光客に自然・水に親しむ空間を提供することにより、自然のやすらぎ、水の潤いを感じてもらうとともに、砂防施設の重要性を認識し、防災意識の高揚を図るための拠点となっている。

下呂町高齢者クラブ「一心会」は、昭和38年1月に下呂町森地区の高齢者で発足し、以来、地域参加を目標に活発な活動を展開しており、平成7年度から毎年2ヶ月に1回阿多野谷河川敷の清掃を実施し、常に、河川敷を清潔に保つことにより、多くの住民、観光客に阿多野谷を訪れてもらい、防災意識を向上させることに貢献している。

このような奉仕活動の積極的な取り組みは、他の模範となっている。

資料写真等



下呂温泉全景



「一心会」による阿多野谷河川敷清掃風景